

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	そめや 染谷	てつお 哲夫
		授業形態	演習				
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。美術・図画工作・造形に関する分野についての研究であり、主なテーマとしては、『絵本や紙芝居の研究・制作』『手作りおもちゃの研究・制作』『教材研究について』『子どもの造形表現活動について』『造形教育の歴史』等である。						
到達目標	1. 各自のテーマに基づいて主体的に研究論文をまとめることを通じ保育者として必要な専門的知識をさらに深めることができる。						
授業計画	第1回	授業の進め方と年間計画			第16回	後期授業の進め方	
	第2回	研究テーマの選定①			第17回	研究・制作⑥	
	第3回	研究テーマの選定②			第18回	研究・制作⑦	
	第4回	研究テーマの選定③			第19回	研究・制作⑧	
	第5回	研究テーマの決定・計画			第20回	研究・制作⑨	
	第6回	文献・資料収集①			第21回	研究・制作⑩	
	第7回	文献・資料収集②			第22回	研究・制作⑪	
	第8回	文献・資料収集③			第23回	研究・制作⑫	
	第9回	研究の視点・構成①			第24回	研究成果 修正とまとめ①	
	第10回	研究の視点・構成②			第25回	研究成果 修正とまとめ②	
	第11回	研究・制作①（中間発表）			第26回	研究成果 修正とまとめ③	
	第12回	研究・制作②			第27回	研究成果 修正とまとめ④	
	第13回	研究・制作③			第28回	研究成果 発表①	
	第14回	研究・制作④			第29回	研究成果 発表②	
	第15回	研究・制作⑤（前期まとめ）			第30回	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習： 問題意識を持ちながら積極的に取り組む。			復習：			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60%）、発表（10%）、授業態度（30%）						
教科書	なし						
参考文献	必要に応じて案内						
注意事項	自分の研究テーマを明確にし、3年間のまとめとして充実した研究となるよう期待している。						

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
		授業形態	演習			
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。研究テーマは食や健康など日常生活全般にわたる。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く生活環境を理解している。 2. 研究テーマをみつけ様々な角度から情報を収集し検証する力を身につけている。 3. 調査結果等から疑問を解決し、まとめる力を身につけている。 					
授業計画	第1回	講義の方針と進め方について			第16回	論文の執筆・フィールドワーク
	第2回	各学生により研究テーマの選定・計画①			第17回	論文の執筆・フィールドワーク
	第3回	各学生により研究テーマの選定・計画②			第18回	論文の執筆・フィールドワーク
	第4回	各学生により研究テーマの選定・計画③			第19回	論文の執筆・フィールドワーク
	第5回	文献・資料収集、観察①			第20回	論文の執筆・データ解析
	第6回	文献・資料収集、観察②			第21回	論文の執筆・データ解析
	第7回	文献・資料収集、観察③			第22回	論文の執筆・データ解析
	第8回	先行研究の発表①			第23回	論文の執筆・データ解析
	第9回	先行研究の発表②			第24回	論文の執筆・データ解析
	第10回	先行研究の発表③			第25回	論文の修正①
	第11回	研究内容の方向づけ①			第26回	論文の修正②
	第12回	研究内容の方向づけ②			第27回	論文の修正③
	第13回	論文執筆の説明			第28回	論文発表
	第14回	論文内容の検討①			第29回	論文発表
	第15回	論文内容の検討②			第30回	まとめ
授業に対する予習・復習	予習： 配布資料および収集した論文等は次回の授業までに予め目を通しておく。			復習： 配布資料、研究内容をまとめ研究計画を見直しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）					
教科書	なし (必要に応じて資料を配布)					
参考文献	なし (必要に応じて資料を配布)					
注意事項	保育者としての視点から、「食」や「健康」をはじめとした自然科学の分野においてテーマをもち、文献研究や観察研究をすすめ、論文としてまとめていく。演習生それぞれが自分の研究テーマに向かって積極的に取り組むことを期待する。先行論文や白書などを参考に情報を収集し、綿密な計画を立て、取り組んでほしい。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	かがや たかふみ 加賀谷 崇文
		授業形態	演習			
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。</p>					
到達目標	<p>1. 各自の興味に沿った研究テーマを見出し、論文を完成させる。</p> <p>2. 保育に関する自分なりの視点を持つ。</p> <p>3. 自分自身の考えを言語化できる。</p>					
授業計画	第1回	講義の方針と年間計画			第16回	論文の執筆①
	第2回	各学生によるテーマの選定①			第17回	論文の執筆②
	第3回	各学生によるテーマの選定②			第18回	論文の執筆③
	第4回	各学生によるテーマの選定③			第19回	論文の執筆④
	第5回	文献の収集①			第20回	論文の執筆⑤
	第6回	文献の収集②			第21回	論文の執筆⑥
	第7回	文献の収集③			第22回	論文の執筆⑦
	第8回	先行研究の発表①			第23回	論文の執筆⑧
	第9回	先行研究の発表②			第24回	論文の執筆⑨
	第10回	先行研究の発表③			第25回	論文の執筆⑩
	第11回	先行研究の発表④			第26回	論文の修正①
	第12回	先行研究の発表⑤			第27回	論文の修正②
	第13回	論文執筆の説明			第28回	論文発表会
	第14回	論文内容の検討①			第29回	論文発表会
	第15回	論文内容の検討②			第30回	まとめ
授業に対する予習・復習	予習： 学生生活の中で常に自身の興味があるテーマについて模索する。			復習： 授業中に受けた指導を元に次回の授業までに必ず研究を進める。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（30%）、授業態度（70%）</p>					
教科書	なし					
参考文献	なし					
注意事項	授業中の作業は卒業研究を行うための補助的なものであり、授業以外の時間帯に研究を行うこと。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	おおわ こういち 大輪 公壹
		授業形態	演習			
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文口調で文章を書くことができる。 2. 要約・縮約の技術を身につけている。 3. 論文の書式（文献表等の書き方）を身につけている。 					
授業計画	第1回	オリエンテーション			第16回	中間報告④ 洋書文献・その他の書式
	第2回	音楽領域研究の方法① 洋楽			第17回	論文の推敲① 論文口調は整っているか
	第3回	音楽領域研究の方法② 日本音楽			第18回	論文の推敲② 各題における全体の配分
	第4回	音楽領域研究の方法③ その他の音楽			第19回	論文の推敲③ 要旨を的確に記述しているかどうか
	第5回	テーマの設定とグループ分け			第20回	最終報告① 注釈・引用文・引用法
	第6回	テーマの決定			第21回	最終報告② 参考文献の本文中の示し方
	第7回	テーマに関する図書研究① 図書館の機能と検索法			第22回	最終報告③ 従来型の示し方
	第8回	テーマに関する図書研究② 秋草学園図書館			第23回	最終報告④ 近年型の示し方
	第9回	テーマに関する図書研究③ 外部図書館			第24回	卒業論文指導① インターネット資料の表記
	第10回	資料検索と論文書式① 資料検索法			第25回	卒業論文指導② 新聞記事の表記
	第11回	資料検索と論文書式② 検索資料の確認			第26回	卒業論文指導③ 書名をどのように表記するか
	第12回	資料検索と論文書式③ 参考引用資料の書式法			第27回	卒業論文指導④ 引用文献一覧の作成
	第13回	中間報告① 概要			第28回	卒業論文指導⑤ 参考文献一覧の作成
	第14回	中間報告② 文献について			第29回	卒業論文報告
	第15回	中間報告③ 文献の書式			第30回	レジュメ発表
授業に対する予習・復習	予習： 新聞の特に社説欄を熟読すること。			復習： 社説の読後、その内容を要約・縮約する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（100%）					
教科書	なし (毎時プリントを配布)					
参考文献	『日本語練習帳』（大野晋、岩波新書）					
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。 2. 論文完成までのマクロ的な計画を立てて進めること。 					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	演習			
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>主な研究テーマとしては、「保育内容」「子どもの生活・遊びや文化に関すること」「育児・家族に関すること」などである。保育所・幼稚園・家庭をフィールドとする質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめる。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究の検討から問題の所在を明らかにできる。 2. インタビューや文献調査などの方法により必要な資料収集および考察を進め、卒業論文としてまとめることができる。 3. 論文発表を通じて、保育にまつわる様々な課題について理解している。 					
授業計画	第1回	講義の方針と年間計画			第16回	調査の実施に向けた準備①
	第2回	フィールドワークの方法① 観察法			第17回	調査の実施①
	第3回	フィールドワークの方法② インタビュー調査			第18回	調査の実施②
	第4回	フィールドワークの方法③ 質問紙調査			第19回	結果の整理①
	第5回	研究テーマの選定			第20回	結果の整理②
	第6回	研究テーマについて必要な文献を集める①			第21回	考察を進める①
	第7回	研究テーマについて必要な文献を集める②等			第22回	考察を進める②
	第8回	先行研究の検討①			第23回	考察を進める③
	第9回	先行研究の検討②			第24回	結論および今後の課題の検討①
	第10回	問題の所在を明らかにする①			第25回	結論および今後の課題の検討②
	第11回	問題の所在を明らかにする②			第26回	研究のまとめ①
	第12回	中間報告① 前半グループの発表			第27回	研究のまとめ②
	第13回	中間報告② 後半グループの発表			第28回	論文発表①
	第14回	子ども関連施設の見学			第29回	論文発表②
	第15回	子ども関連施設の見学			第30回	まとめ
授業に対する予習・復習	予習： 研究テーマ設定のための下調べをすること、文献や資料に目を通すこと、課題をこなすことが必要である。			復習： 課題についての修正や論文の執筆作業を進めること。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）</p>					
教科書	なし					
参考文献	<p>『大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康、講談社新書）</p> <p>『論文の教室』（戸田山和久、NHKブックス）</p>					
注意事項	研究テーマを明確にすること、必要な文献をしっかりと読みこなすことを期待したい。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
		授業形態	演習			
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じて保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマ 1. 発達心理学など、子どもや保育・教育に関わる心理学全般 2. 「子育て支援」に関する分野 3. 「教育・保育相談」、「カウンセリング」などの分野</p>					
到達目標	1. 卒業研究（卒業論文）の作成を通して、研究の方法を修得し、学生個々が選んだテーマに関する見識を深めている。					
授業計画	第1回	本ゼミの方針と年間計画			第16回	論文執筆①
	第2回	論文作成についての概説			第17回	論文執筆②
	第3回	各学生による研究テーマの選定①			第18回	論文執筆③
	第4回	各学生による研究テーマの選定②			第19回	論文執筆④
	第5回	各学生による研究テーマの選定③			第20回	論文執筆⑤
	第6回	各学生による研究テーマの選定④			第21回	論文執筆⑥
	第7回	文献・資料収集①			第22回	論文執筆⑦
	第8回	文献・資料収集②			第23回	論文執筆⑧
	第9回	文献・資料収集③			第24回	論文の修正①
	第10回	卒論計画の発表①			第25回	論文の修正②
	第11回	卒論計画の発表②			第26回	論文の修正③
	第12回	卒論計画の発表③			第27回	論文の修正④
	第13回	論文執筆の説明			第28回	論文発表会①
	第14回	論文内容の検討①			第29回	論文発表会②
	第15回	論文内容の検討②			第30回	まとめ
授業に対する予習・復習	予習： 研究テーマを決定し、卒業研究作成スケジュール等を理解する。			復習： 卒業研究の作成。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（70%）、発表（30%）					
教科書	なし					
参考文献	随時紹介					
注意事項	論文提出の締め切りは12月中旬（予定）、論文提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	あさぎ なおみ 浅木 尚実
		授業形態	演習			
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行う。論文提出後には発表会が行い、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。主な研究テーマとしては、児童文化、児童文学、保育内容、遊び、育児・家族支援等を中心とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が自らの興味・関心に基づき、研究テーマを見出すことができる。 2. 先行研究を検討し、問題の所在を明確化することができる。 3. テーマに沿った文献収集を行うことができる。 4. インタビュー、文献調査等の方法により、場合によってフィールドワークを行い、考察することができる。 5. 卒業論文の形式を学び、調査、研究した内容をまとめることができる。 					
授業計画	第1回	講義の方針と年間計画			第16回	論文作成の準備①
	第2回	研究テーマについての講義①			第17回	論文作成の準備②
	第3回	研究テーマについての講義②			第18回	論文作成の準備③
	第4回	研究テーマについての講義③			第19回	論文作成の準備④
	第5回	学生によるテーマの選定①			第20回	論文作成①
	第6回	学生によるテーマの選定②			第21回	論文作成②
	第7回	学生によるテーマの選定③			第22回	論文作成③
	第8回	先行研究の検討			第23回	論文作成④
	第9回	先行研究の発表			第24回	論文作成⑤
	第10回	文献調査①			第25回	論文作成⑥
	第11回	文献調査②			第26回	論文修正①
	第12回	関連施設の見学①			第27回	論文修正②
	第13回	関連施設の見学②			第28回	論文発表会①
	第14回	中間発表①			第29回	論文発表会②
	第15回	中間発表②			第30回	まとめ
授業に対する予習・復習	予習： 自分の興味のある研究テーマについて模索すること。 文献資料を収集し、目を通すこと。			復習： 課題について、教員から受けた指導に従って、研究、修正等を適宜行うこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、課題（10%）、発表（10%）授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考文献	その都度紹介する					
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時間を有効に使うことはもとより、授業以外の時間の研究も行う必要がある。 2. 指導教員の指導は、決められた時間内に受けること。 					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
		授業形態	演習			
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業研究（論文もしくは作品の作成）を行う。</p> <p>講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。</p> <p>卒業研究成果物の提出後は、各ゼミナール単位での発表会が行われる。</p>					
到達目標	<p>1. “保育・幼児教育の専門家”としての将来の自分自身を想定した「災害サバイバルシミュレーション」の実行を通して、いつ現実化するかわからない災害に遭遇した際の心構えを体得できるようになる。</p> <p>2. 上記シミュレーションの結果を卒業研究の成果物として整理することにより、特に防災の観点からみて保育者に必要とされる知見・知識・経験の詳細を、具体的に確認することができる。</p>					
授業計画	第1回	前期ガイダンス 演習の目的や授業の進めかた等々についての説明	第16回	後期ガイダンス 演習目的の確認、シミュレーションについての説明、その他		
	第2回	研究の前準備① 「地域保育基礎講座」の復習（第0講～第2講）	第17回	研究の前準備⑬ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解		
	第3回	研究の前準備② 「地域保育基礎講座」の復習（第3講・第4講）	第18回	研究の前準備⑭ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解		
	第4回	研究の前準備③ 「地域保育基礎講座」の復習（第5講・第6講）	第19回	研究の前準備⑮ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解		
	第5回	研究の前準備④ 「地域保育基礎講座」の復習（第7講・第8講）	第20回	研究の前準備⑯ シミュレーションの練習		
	第6回	研究の前準備⑤ 「地域保育基礎講座」の復習（第9講・第10講）	第21回	研究の前準備⑰ シミュレーションの練習（前回の続き）		
	第7回	過去の卒業研究例の閲覧 本学科卒業生の作成した論文・作品の鑑賞	第22回	卒業研究① 本番のシミュレーションのための準備		
	第8回	研究の前準備⑥ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解	第23回	卒業研究② 本番のシミュレーションの開始		
	第9回	研究の前準備⑦ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解	第24回	卒業研究③ シミュレーションの継続（内容の増補改訂）		
	第10回	研究の前準備⑧ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解	第25回	卒業研究④ 各自のシミュレーション結果の中間発表		
	第11回	研究の前準備⑨ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解	第26回	卒業研究⑤ シミュレーションの仕上げ、および説明文の準備		
	第12回	研究の前準備⑩ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解	第27回	卒業研究⑥ シミュレーション(+説明文)の完成、および成果物の提出		
	第13回	研究の前準備⑪ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解	第28回	卒業研究⑦ 各自の研究成果の発表および質疑応答		
	第14回	研究の前準備⑫ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解	第29回	卒業研究⑧ 各自の研究成果の発表および質疑応答（前回の続き）		
	第15回	授業前半（第1回～第14回）のまとめ これまでの演習内容の総括および整理	第30回	全体のまとめ 通年の演習内容の総括および整理		
授業に対する予習・復習	予習： 「研究の前準備①～⑤」については、教科書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと。その他、予習に必要な事項については、担当教員が随時指示する。			復習： 復習に必要な事項については、担当教員が随時指示する。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）</p>					
教科書	『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために』（藤田哲也ほか、北大路書房） 上記は、本学入学年度に開講した地域保育学科必修授業「地域保育基礎講座」において、使用したテキストである（紛失もしくは廃棄した場合を除き、再度購入する必要はない）。					
参考文献	必要に応じて随時紹介					
注意事項	<p>1. 他の授業と同じく、無断欠席や無断遅刻、無断早退などの「無断～」な言動は厳禁とする。</p> <p>2. 架空イベントの詳細を頭の中で想起し整理するには、豊かな想像力および強い精神力が求められる。</p> <p>3. 卒業研究の成果物（シミュレーション結果）は、「作品」として扱われる。</p> <p>4. 提出締め切り後に成果物の修正を求められた場合、その修正作業に対する評価は「発表」に含まれる。</p>					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
		授業形態	演習			
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献講読により各自のテーマに応じた基礎的知識を主体的に学ぶことができる。 2. 資料収集やフィールドワークを取り入れながら論文執筆に取り組むことができる。 3. 「子どもをめぐる教育問題」「子どもの問題行動」「子ども観の変容」を中心としたテーマについて、自分なりの見解を説得的に論じることができるようになる。 					
授業計画	第1回	論文の書き方			第16回	論文の執筆
	第2回	参考文献の探し方・資料収集の方法			第17回	論文の執筆
	第3回	引用・注記の仕方・ネット情報の扱い方			第18回	論文の執筆
	第4回	文献による基礎研究①			第19回	論文の執筆
	第5回	文献による基礎研究②			第20回	論文の執筆
	第6回	文献による基礎研究③			第21回	論文の執筆
	第7回	研究テーマの選定および問題関心の検討①			第22回	論文の執筆
	第8回	研究テーマの選定および問題関心の検討②			第23回	論文の執筆
	第9回	研究テーマの選定および問題関心の検討②			第24回	中間発表
	第10回	先行研究の検討①			第25回	論文の修正
	第11回	先行研究の検討②			第26回	論文の修正
	第12回	先行研究の検討②			第27回	論文の修正
	第13回	中間発表			第28回	論文発表①
	第14回	中間発表			第29回	論文発表①
	第15回	中間発表			第30回	まとめ
授業に対する予習・復習	予習： 参考文献を通読し、疑問点や質問点を事前にまとめておくこと。 参考文献に関する書籍・論文を調べ、講義の中で紹介できるよう準備する。			復習： 受講生内での意見交換をもとに、各自のテーマに関連する意見や文献情報を記録していくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%） #提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、					
教科書	なし					
参考文献	必要に応じて適宜紹介					
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに関する資料は、学生が築いたネットワークの中にも存在する。学生がこれまでに得てきた他者との繋がりの中から研究テーマを見つけることを重視する。 2. 日常生活で疑問に思ったことや悩んだ経験について、日ごろから記録をとっておくことを期待する。受講生が経験から得た感覚は、卒業研究の問題関心を見つけるうえで、貴重なヒントになるはずである。 					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
		授業形態	演習			
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。研究テーマとしては、「地域における健全育成」、「現代における子どもの居場所」等のキーワードを中心とする。					
到達目標	1. 論文の作成方法を習得している。 2. 少人数のゼミナール形式で協調性を身につけている。 3. 論文作成を通して、保育者として必要な専門的知識を習得している。					
授業計画	第1週	授業の進め方		第16週	研究論文の執筆①	
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究①		第17週	研究論文の執筆②	
	第3週	文献、視聴覚教材による基礎研究②		第18週	研究論文の執筆③	
	第4週	テーマの設定①		第19週	研究論文の執筆④	
	第5週	テーマの設定②		第20週	研究論文の執筆⑤	
	第6週	文献、資料などの収集①		第21週	研究論文の執筆⑥	
	第7週	文献、資料などの収集②		第22週	研究論文の執筆⑦	
	第8週	文献、資料などの収集③		第23週	研究論文の執筆⑧	
	第9週	調査、研究の方法①		第24週	中間発表③	
	第10週	調査、研究の方法②		第25週	論文の修正①	
	第11週	論文の執筆について		第26週	論文の修正②	
	第12週	中間発表①		第27週	論文の修正③	
	第13週	中間発表②		第28週	論文発表①	
	第14週	論文の検討①		第29週	論文発表②	
	第15週	論文の検討②		第30週	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習： 毎週提示される課題に沿って、研究を各自で進めてくること。			復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考文献	なし					
注意事項	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					

科目名	保育原理Ⅱ		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	講義			
授業の内容	保育原理Ⅰでの学びを踏まえ、以下の内容を中心に学ぶ。 ①保育者の専門性として子ども・保護者・保育者同士のかかわりの中で求められるもの ②乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応 ③保育所や幼稚園、認可外保育施設の現状や課題 ④子ども、保護者を取り巻く課題					
到達目標	1. 子ども・保護者・保育者同士のかかわりの中で、保育者に求められる専門性を理解している。 2. 乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応を理解している。 3. 保育の現状や子ども・保護者を取り巻く課題を理解している。					
授業計画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	保育者の専門性① 子どもとのかかわりの中で求められるもの				
	第3回	保育者の専門性② 保護者とのかかわりの中で求められるもの				
	第4回	保育者の専門性③ 保育者同士のかかわりの中で求められるもの、保育者の成長と研修				
	第5回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応① 健康と安全に関する留意事項				
	第6回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応② 乳児保育への対応				
	第7回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応③ 延長・夜間におよぶ子どもの保育				
	第8回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応④ 特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応				
	第9回	保育の現状と課題① 保育所の現状				
	第10回	保育の現状と課題② 幼稚園の現状				
	第11回	保育の現状と課題③ 認可外保育施設の現状				
	第12回	保育の現状と課題④ 保育の質と評価				
	第13回	保育の現状と課題⑤ 認定子ども園の設立と今後の展望				
	第14回	保育の現状と課題⑥ 子ども・保護者を取り巻く課題				
	第15回	まとめ、保育研究の視点				
授業に対する予習・復習	予習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。			復習： 授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、レポート（20%）、課題（10%）					
教科書	『保育原理〔第3版〕（最新保育講座）』（森上史朗・若月芳浩、ミネルヴァ書房）					
参考文献	授業において紹介					
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。					

科目名	保育の心理学		単位数	1	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
		授業形態	演習			
授業の内容	<p>本講義では、講義「発達心理学」の内容を踏まえて、発達心理学と教育心理学等の基礎的知識の拡充と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。</p> <p>保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。</p>					
到達目標	<p>これまで学んだ基礎的知識を復習し、新たな知見を学び、それらを使って、子どもや大人の心の発達理解と子育て支援にどのように活かせるのかを考え、実践できる。</p> <p>1. 発達心理学、教育心理学等の基本的および発展的知識を正確に習得している。</p> <p>2. 学んだ知識を活用して、実際の保育現場の子どもの心の発達等について考えられる力を身につけている。</p>					
授業計画	第1回	イントロダクション				
	第2回	保育の心理学の基礎① 発達理論の復習				
	第3回	保育の心理学の基礎② 発達理論の応用				
	第4回	保育の心理学の基礎③ 教育心理学理論等の復習				
	第5回	保育の心理学の基礎④ 教育心理学理論等の応用				
	第6回	知的機能				
	第7回	情緒				
	第8回	社会性				
	第9回	発達障害① 発達障害とは何か				
	第10回	発達障害② 発達障害の種類				
	第11回	発達障害③ 発達障害への対応				
	第12回	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫				
	第13回	家庭、保護者、他機関等との連携				
	第14回	保育者自身の心の健康				
	第15回	まとめと今後へのアドバイス				
授業に対する予習・復習	予習：			復習： 毎回、学んだ知識を正確に習得できるように授業ノートや参考文献等を丁寧に見直すこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（60%）、レポート（40%）</p>					
教科書	なし					
参考文献	<p>『発達心理学』（越智幸一 編、大学図書出版、2015）</p> <p>他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介</p>					
注意事項	<p>1. 講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、さまざまな知見等を保育の実践に活かすことを考える。</p> <p>2. 受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>					

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	こいけ じゅんこ 小池 純子
		授業形態	演習		
授業の内容	<p>子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について、『子どもの保健Ⅰ』で得た知識を実践できるように演習を重ね、習得することを目的とする。</p> <p>だっこ・おむつ替え等の養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容、心の問題や保護者への精神的サポートについて、演習を通して理解を深める。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心と身体の健康・増進するために必要な知識を理解している。 2. 演習を通して、保育の現場で活かせる技術を身につけている。 3. 健康上の配慮が必要な子どもへの対応、保護者へのサポート方法を習得している。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション 演習に臨む姿勢 子どもの発育・発達の観察と評価① 発育・発達			
	第2回	子どもの発育・発達の観察と評価② 身体計測			
	第3回	子どもの健康観察と健康管理			
	第4回	子どもの養護と教育① 抱っこ・おんぶ・排泄			
	第5回	子どもの養護と教育② 清潔			
	第6回	子どもの養護と教育③ 沐浴・衣類の着脱・おむつ交換			
	第7回	子どもの養護と教育④ 栄養			
	第8回	子どもの生活習慣			
	第9回	体調不良の子どもへの対応① 発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛			
	第10回	体調不良の子どもへの対応② けいれん・脱水・頭痛・鼻汁・鼻閉			
	第11回	体調不良の子どもへの対応③ 感染性疾患・薬			
	第12回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応			
	第13回	子どもの心と体の健康づくりのために			
	第14回	望ましい保育環境と安全対策			
	第15回	保育における応急手当			
授業に対する予習・復習	予習： 授業計画を参考に教科書で内容を確認する。		復習： 授業で得た知識を確認する。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（30%）、課題（30%）、実技（20%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子、編集 創成社）				
参考文献	必要時資料配付				
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書、筆記用具を持参すること。 2. 漫然とただ参加するのではなく、子ども・保護者の心境をイメージしながら主体的に取り組むこと。 				

科目名	社会的養護		単位数	2	担当教員	まんどろ あきお 萬燈 章雄
		授業形態	講義			
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。課題を抱えながら生活する子どもたちに、本来もつ権利を守りながら保育士としてどのように関わり、支援していくのかを学習する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解している。 2. 「子どもの最善の利益」とは何かについて習得している。 3. 社会的養護に携わる保育士の職務と倫理について習得している。 					
授業計画	第1回	オリエンテーション～「社会的養護」とは社会的養護に携わる保育士としての基本的スタンスについて学ぶ				
	第2回	子ども観と社会的養護の歴史 子どもが歴史的にどのように扱われてきたか				
	第3回	社会的養護問題の本質 育てられない家庭環境と社会構造の問題について学ぶ				
	第4回	社会的養護の仕組み 児童相談所を中心とした「措置」制度について学ぶ。「措置」と「契約」について				
	第5回	児童福祉施設の種類と専門職 適切な施設の選択、配置すべき専門職などを学ぶ				
	第6回	里親制度・親権と養子縁組について なぜ今里親委託推進なのか				
	第7回	社会的養護実践の枠組み（ケースワーク・グループワークなど） 個別対応から施設や地域での流れや取り組みについて学ぶ				
	第8回	社会的養護の概念及び仕組みについて 中間まとめ 理解度チェックとレポート				
	第9回	アタッチメントについて 「子どもの安全基地」について学ぶ				
	第10回	児童虐待と社会的養護 虐待を受けてきた子供たちについて理解する				
	第11回	児童福祉施設での基本技術 アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）と記録の書き方について				
	第12回	今後の社会的養護の方向性 児童福祉法の総則改正と子どもの権利条約、「今後の社会的養護の将来像」について学ぶ				
	第13回	演習Ⅰ 児童福祉施設での実践事例について学習する・保育士の役割や倫理についても学ぶ				
	第14回	演習Ⅱ 事例研究 子どものルーツを知る権利について・学習する子どもの権利擁護について				
	第15回	子どもの最善の利益と権利擁護について 最終まとめ 理解度チェックとレポート				
授業に対する予習・復習	予習： 事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。		復習： 配付した資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降でも構わないので質問してください。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（30%）、レポート（20%）、発表（20%）、授業態度（30%）					
教科書	『社会的養護 [第4版]』（小池由佳 山縣文治 編著、ミネルヴァ書房）					
参考文献	授業で適宜紹介					
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を2回ほど実施します。 2. 前半は主に講義形式ですが、後半は課題発表や事例研究など、なるべく授業に参加していただくことを予定しています。受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本プリント配布で授業をすすめますが、補足的にテキストを使います。 					

科目名	相談援助		単位数	1	担当教員	ためいし まりお 為石 摩利夫
		授業形態	演習			
授業の内容	家庭の抱える問題は多様化しており、その背景も含めて理解することが相談者を受け止め、信頼関係を構築することにつながっていく。また、問題が複雑に絡み合っている場合には、専門機関との連携した取り組みも必要である。相談援助の実践において信頼される援助者となるための知識・技術を学ぶ。					
到達目標	保育現場における相談援助機能について学び、その必要性と事例を通じて対象者への理解を深める。 1. 相談援助の必要性について理解している。 2. 相談援助の対象者の理解と受け止め、専門機関との連携の必要性を理解している。 3. アセスメントの重要性と計画の見直しの必要性を理解している。					
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方と評価について理解する				
	第2回	相談援助の理論と意義 相談援助の理論の発展過程や意義について学ぶ				
	第3回	相談援助の機能 相談援助に求められる機能について学ぶ				
	第4回	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークの定義について学ぶ				
	第5回	保育とソーシャルワーク 保育士としての相談支援について理解する				
	第6回	相談援助の対象 児童・保護者・地域との関わり方を理解する				
	第7回	相談援助のプロセス① 相談援助の進め方について学ぶ				
	第8回	相談援助のプロセス② 相談援助の基本的技術について学ぶ				
	第9回	相談援助のプロセス③ 計画・記録、評価、見直しについて学ぶ				
	第10回	相談援助の関係機関 関係機関との協働について理解する				
	第11回	多様な専門職との連携 連携の意義について理解する				
	第12回	グループワーク① 事例分析（社会資源との連携）				
	第13回	グループワーク② 事例分析（虐待の予防と対応）				
	第14回	グループワーク③ 事例分析（障害のある子）				
	第15回	相談援助のまとめ				
授業に対する予習・復習	予習： 事前に教科書の内容を確認する。			復習： 疑問点を明確にし、基本原則とその応用について考察する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、授業態度（30%）					
教科書	『基本保育シリーズ⑤ 相談援助』（松原康雄・村田典子・南野奈津子編集、中央法規出版）					
参考文献	授業中に適宜紹介					
注意事項	1. 地域社会では、家庭生活に様々な問題を抱えている家庭も多く、子どもはそうした環境に影響を受けながら成長していく。相談援助では、子どもの成長を保障するため、支援の対象となる家庭や保護者、社会環境を含めて理解することが基本となる。講義では相談援助の対象となる家庭の問題や社会環境等を通じて相談援助の必要性を理解するとともに、支援者としての在り方を事例検討を通じて学んでいく。 2. 成績評価のレポートでは、講義で学んだ家庭の理解と支援者として自らがどの様に取り組むかを記述させ、授業態度と併せて評価する。					

科目名	家庭支援論		単位数	2	担当教員	きたざわ あきこ 北澤 明子
		授業形態	講義			
授業の内容	<p>家族、家庭のあり方が変化し、多様化した現在、保育者は家庭や地域と連携しながら、子育てを支援していくことが求められている。本講では、子育てにおける「家庭支援」の背景や目的、方法について学ぶとともに家族、家庭のあり方や保育者として必要な家庭支援について考えていく。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の意義とその機能について理解し、説明することができる。 2. 現在の子育て家庭を取り巻く環境について理解し、どのような支援が必要かを考えることができる。 3. 子育て支援の法的根拠や支援政策について説明することができる。 4. 子育て支援の実際について理解し、今後どのような支援をしていきたいか考えることができる。 					
授業計画	第1回	オリエンテーションー授業の進め方・参考文献の紹介等ー				
	第2回	家庭の意義と機能				
	第3回	家族・家庭・子育ての歴史①ー江戸・明治までー				
	第4回	家族・家庭・子育ての歴史②ー昭和から現在までー				
	第5回	現在の家庭を取り巻く状況①ー図からの読み取りー				
	第6回	現在の家庭を取り巻く状況②ー読み取ったことから必要な支援について考えるー				
	第7回	子育て家庭支援の必要性				
	第8回	現在の子どもを取り巻く状況				
	第9回	子育て支援の法的根拠				
	第10回	我が国の子育て支援・政策				
	第11回	子育て支援の実際①ー保育所・幼稚園における子育て支援の取組ー				
	第12回	子育て支援の実際②ー地域における子育て支援の取組ー				
	第13回	子育て支援の実際③ーその他ー				
	第14回	保育の場における具体的な事例紹介				
	第15回	まとめー子どもを産むこと・育てるということについて考えるー				
授業に対する予習・復習	予習： 出された課題は授業の予習・復習をかねるので真摯に取り組むこと。		復習： 授業で配布された資料を整理し、前回の授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（80%）、授業態度（20%）</p>					
教科書	『家庭支援論の基本と課題』（井村圭壯他、学文社）					
参考文献	授業内で必要な参考文献を紹介していく。					
注意事項	適宜、必要な資料を授業内に配布するので、配布された資料はファイリングして毎回授業に持参すること。					

科目名	障害児保育		単位数	2	担当教員	さいとう かずよし 齊藤 和良
		授業形態	演習			
授業の内容	この講義では、障害児保育の基本理念と意義を紹介し、視覚障害、聴覚障害、知的障害や発達障害などの各障害の原因や特性及び保育上の留意点について講義する。さらに障害児の援助方法や家庭支援、医療や福祉などの関係機関との連携のあり方について論究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解している。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について工夫できる。 3. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解している。 4. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解している。 					
授業計画	第1回	ガイダンス 障害児保育とは	第16回	発達障害児の理解と援助 ① 広汎性発達障害の分類・定義・心理的特徴		
	第2回	障害とは 障害の概念、各障害の定義と分類	第17回	発達障害児の理解と援助 ② 自閉症スペクトラム障害について		
	第3回	障害者処遇の歴史の変遷 障害児・者の歴史の変遷と障害児の保育・教育	第18回	発達障害児の理解と援助 ③ 学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)の定義と特徴		
	第4回	障害児保育を支える理念 統合保育、ノーマライゼーション、インクルージョン	第19回	病弱、身体虚弱児の理解と援助 病弱・身体虚弱の定義、病弱児の心理的特徴と支援		
	第5回	障害児保育の意義と基本 障害児と健常児 共に育つことの意味	第20回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ① 障害児の親の受容と受容過程、養育態度		
	第6回	特別支援教育・障害児保育の対象 特別支援教育の対象と目的、教育の場	第21回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ② 家庭保育と家族に対する支援		
	第7回	視覚障害児の理解と援助 視覚障害の定義と分類、視覚障害児の心理的特徴	第22回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ③ 地域の専門機関等との連携		
	第8回	聴覚障害児の理解と援助 聴覚障害の定義と分類、聴覚障害児の心理的援助	第23回	障害児保育の実際 ① 障害児保育の目標とその形態		
	第9回	肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由児の分類と原因、脳性まひ児の分類	第24回	障害児保育の実際 ② 保育所・幼稚園での支援体制とは		
	第10回	知的障害児の理解と援助 ① 知能指数とは、知的障害の定義・分類・原因	第25回	障害児保育の実際 ③ ケースカンファレンスと保育の評価		
	第11回	知的障害児の理解と援助 ② 知的障害児に対する支援	第26回	障害児保育の実際 ④ 行動観察による子どもの理解		
	第12回	言語障害児の理解と援助 言語障害の定義と分類、言語指導	第27回	障害児保育の実際 ⑤ 客観的評価による子どもの理解 (スクリーニング検査)		
	第13回	情緒障害児の理解と援助 ① 情緒障害の分類、選択性緘黙症やチックの心理的特徴	第28回	障害児保育の実際 ⑥ 心理検査による子どもの理解 (発達検査・言語検査など)		
	第14回	情緒障害児の理解と援助 ② 外傷性ストレス障害 (PTSD) の心理的特徴	第29回	障害児保育にかかわる現状と課題 保健・医療・福祉・教育における現状と課題		
	第15回	前期の総括 及び小テスト	第30回	障害児保育の今後のあり方 総括と小テスト		
授業に対する予習・復習	予習： シラバスに沿って、授業内容を教科書やインターネット等で調べ、あらかじめ把握しておくこと。			復習： 授業で指摘した問題点や要点をまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 () する / (○) しない 筆記試験 (30%)、レポート (20%)、課題 (30%)、授業態度 (20%)					
教科書	『よくわかる障害児保育』(尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編、ミネルヴァ書房)					
参考文献	授業内で随時紹介					
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 2. 授業への積極的な参加を期待する。 					

科目名	施設実習 I	単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
		授業形態	実習		
授業の内容	施設実習は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習である。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがある。原則として、11日間施設に宿泊又は通勤し、利用者と生活をともにしながら実習を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前準備をしっかりと行い、実習施設について理解している。 2. 利用者一人一人への適切な支援のあり方を習得している。 3. 施設の機能を理解している。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の一日の生活の流れを知る。 ・保育者の一日の職務を知る。 ・利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。 ・自由時間の過ごし方やレクリエーションについて学ぶ。 ・衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。 ・日中活動における支援のあり方について学ぶ。 ・福祉施設における保育者の役割について学ぶ。 ・福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。 ・施設の機能について多様な視点から学ぶ。 ・福祉事務所、児童相談所など他機関との連携について学ぶ。 ・利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。 <p style="text-align: right;">以上11日間の学外実習をする。</p>				
授業に対する予習・復習	予習： 事前指導の受講が必須。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習園評価（50%）、実習記録（30%）、実習課題（20%）				
教科書	なし				
参考文献	なし				
注意事項	施設実習派遣には、「福祉施設実習研究」の履修が必要条件である。				

科目名	保育所実習Ⅱ		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	実習			
授業の内容	保育所実習Ⅱは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、さらには子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶ。実習の段階としては「参加・責任実習」であり、子どもの生活や発達へのかかわりを更に深め、保育者として職務内容や職業倫理についても理解を深める必要がある。					
到達目標	1. 子どもの生活や発達、保育者の役割をより一層理解している。 2. 指導計画の作成・実践・省察・評価から保育の過程を理解している。 3. 保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携を理解している。					
授業計画	後期保育所実習は、原則として第3学年の9月に実施する（2週間）。 参加・責任実習の主な内容 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ① 養護と教育が一体となって行われる保育 ② 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 ① 子どもの心身の状態や活動の観察 ② 保育者の動きや実践の観察 ③ 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携 ① 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ② 入所している子どもの保護者支援と地域の子育て家庭への支援 ③ 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ① 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 ② 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 ① 多様な保育の展開と保育士の業務 ② 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化					
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、指導何の作成など必要な準備を行うこと。			復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習施設による評価（50%）、実習日誌（30%）、実習課題（20%）					
教科書	『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参考文献	授業にて紹介					
注意事項	保育に関連する教科書・参考文献を読む、また遊びの具体例などについて情報を集めて習熟しておくなど、実習に向けて積極的に自己学習のプランを立て実行すること。					

科目名	福祉施設実習研究Ⅰ		単位数	1	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
		授業形態	演習			
授業の内容	<p>保育所を除く児童福祉施設を中心とした実習準備のための授業である。実習の目的や意義、実習内容等福祉施設実習に必要な知識や技能を学ぶ。また、福祉施設利用者の権利擁護、施設職員としての倫理観、実習生としての勤務のあり方についても学ぶ。実習に必要な書類の提出のほか実習施設から届けられる様々な情報も授業時に伝える。</p>					
到達目標	<p>1. 施設の種別、それぞれの機能について理解している。 2. 施設の種別ごとの利用者について理解している。 3. 施設実習に必要な知識や技能を身につけている。</p>					
授業計画	第1回	施設実習の位置づけ、意義について 実習申込書（誓約書）の配布				
	第2回	実習の要件、実習の形態、実習中に必要とされる事項 実習申込書の提出				
	第3回	養育を必要とする福祉施設における実習				
	第4回	障がいをもつ人たちのための福祉施設での実習				
	第5回	実習希望調査 配当資料の提出				
	第6回	養護系福祉施設における実習内容				
	第7回	障がいをもつ方が利用する福祉施設における実習内容				
	第8回	実習課題について				
	第9回	実習書類の記入と提出				
	第10回	実習施設におけるオリエンテーションについて				
	第11回	実習施設研究				
	第12回	実習日誌の書き方				
	第13回	実習書類の確認 細菌検査、実習施設に提出するレポートや誓約書等				
	第14回	実習直前指導、各種報告書の準備				
	第15回	実習評価、個別面談				
授業に対する予習・復習	予習：			復習： 福祉系、養護系テキスト等の熟読 児童福祉法や関連法規の復習。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（20%）、授業態度（20%）、実習書類提出（10%）</p>					
教科書	『福祉施設実習ハンドブック』（岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 編、株式会社みらい）					
参考文献	なし					
注意事項	提出物の期限は厳守すること。					

科目名	保育所実習研究Ⅱ		単位数	1	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
		授業形態	演習			
授業の内容	保育所実習研究Ⅱは、後期保育所実習（3年次9月）の事前事後指導である。事前指導では、後期保育所実習の目的や内容を理解すること、実習課題を明確にすること、指導計画の作成や実習に必要な実技を確認することを行っていく。事後指導では、実習の総括と自己評価を求め、実習報告会などの振り返りの場を通して、保育についての課題を明確にしていく。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に関する必要な知識と心構えを身につけ、心身ともに実習に向けての準備を行うことができる。 2. 指導案の立案と作成ができる。 3. 実習終了後に実習での学びの総括と評価を行い、保育についての課題を明確にできる。 					
授業計画	第1回	後期実習の目的・内容の理解				
	第2回	実習に必要な書類の作成① 調査書				
	第3回	実習に必要な書類の作成② オリエンテーション報告書等				
	第4回	実習課題を明らかにする				
	第5回	指導案作成上の基本の確認				
	第6回	指導案の立案① 幼児クラス主活動				
	第7回	指導案の立案② 幼児クラス生活場面				
	第8回	指導案の立案③ 未満児クラスの場合				
	第9回	指導案の立案④ 幼児クラスの場合				
	第10回	実習に必要な実技の確認				
	第11回	実習記録の実際と方法				
	第12回	実習内容の振り返りとまとめ				
	第13回	実習報告会の準備				
	第14回	実習報告会				
	第15回	実習の総括				
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。			復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）					
教科書	『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参考文献	授業において紹介					
注意事項	指導案の作成にあたり、様々な授業を通して学んできた遊びや造形表現のアイデアが必要になる。子どもとの活動に際して、役に立ちそうなものをノートにまとめておくなど、学びに対する主体的な態度をもつよう心掛けてほしい。実習について必要な準備を進めるため、原則として欠席はしないこと。					

科目名	教育相談		単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
		授業形態	講義			
授業の内容	<p>教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。</p> <p>背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになると考えられる。本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で生きる教育相談の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。</p>					
到達目標	<p>カウンセリング等相談の基本を学び、それを保育現場での教育相談の実践に活かすことを考えられること。そして、保育者として多様な子どもや保護者の問題を理解し、相談者の心に寄り添う相談実践を勇気を持っておこなえるようになる。</p> <p>1. 相談の意義、方法等の基本を習得している。</p> <p>2. 保育者として、相談者の心に寄り添う教育相談の実践をおこなう心を身につけている。</p>					
授業計画	第1回	イントロダクション 教育相談とは何か				
	第2回	体験から学ぶ相談に必要なこと① ロールプレイ 相談を受ける時の基本姿勢				
	第3回	体験から学ぶ相談に必要なこと② ロールプレイ 意思を通じあうこと				
	第4回	相談実践の基本と応用① 教育相談の基礎① 概要				
	第5回	相談実践の基本と応用② 教育相談の基礎② 実践へのヒント				
	第6回	相談実践の基本と応用③ 教育相談のためのカウンセリング活用				
	第7回	相談実践の基本と応用④ 教育相談のための心理アセスメント				
	第8回	相談実践の基本と応用⑤ 教育相談のプロセス				
	第9回	相談実践の基本と応用⑥ 教育相談の技法				
	第10回	事例から学ぶ教育相談① 子どもの心の発達・心の問題 登園渋り				
	第11回	事例から学ぶ教育相談② 子どもの心の発達・心の問題 逸脱行動				
	第12回	事例から学ぶ教育相談③ 子どもの心の発達・心の問題 保護者の心				
	第13回	保育者の心の健康を育む① カウンセリングの理論				
	第14回	保育者の心の健康を育む② エンカウンター実習				
	第15回	まとめと今後へのアドバイス				
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 知識の定着をおこない、学んだことを実際の場面でどう活かすか考えること。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（80%）、課題（20%）</p>					
教科書	なし					
参考文献	講義の中で必要に応じて適宜紹介					
注意事項	<p>1. 講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。</p> <p>2. 相談を受けて人に関わる時、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。</p>					

科目名	幼児教育実習	単位数	4	担当教員	こんじき はるこ 近喰 晴子
		授業形態	実習		
授業の内容	授業を通して学んだ知識や技能が、幼児教育の場でいかに活かされ応用することができるかということを実践を通して学び、保育の営みを総合的に理解する。また、保育の様子を観察する、子どもの活動に参加する、保育者の助手的立場をとるなどの経験を通し保育者の職務理解に勤める。観察・参加実習を中心とした前期実習を2年次11月に、参加・責任実習を3年次6月に実施する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達を体験的に学び、子どもの実態に合った保育の営みについて理解している。 2. 保育者の職務理解に努め、責任実習を通し指導方法、指導技術などを習得している。 3. 幼稚園の役割や機能について理解している。 				
授業計画	前期実習（観察・参加実習）	後期実習（参加・責任実習）			
	実習園の概要を知る	幼稚園の特徴、機能や役割を学ぶ			
	実習園の日課を理解する	配属クラスの特徴をつかみ子どもとかかわる			
	配属クラスの子どもの名前を覚える	個々の子どもの特性を把握し、一人ひとりに合ったかわりをする			
	子どもの遊びに参加する	保育者の保育の進め方や指導方法を学ぶ			
	保育の進め方を観察する	保育の多様な活動の部分を担当する			
	環境構成のあり方を学ぶ	教材研究をする			
	絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等、保育の営みの一部分を担当する	部分実習、責任実習などの指導案を作成し実践する			
	子どもの興味・関心、思考傾向など子どもの実態を知る	登園時、降園時の保育者と保護者のかかわり方を観察する			
	保育者の職務について学ぶ	幼稚園と他機関との連携、子育て支援などについて学ぶ			
	前期実習を振り返り自己評価をする	実習全般の振り返りを行う			
	自己課題を明確にし後期実習にむけた準備をする	保育者としての自己課題を明確にする			
授業に対する予習・復習	予習： 絵本や紙芝居等の教材研究をする。 指導案を作成する。 子どもに提供できる遊びを身に付ける。 ピアノの練習をする。	復習： 実習概要報告書をまとめる。 実習を振り返り自己課題を明確にする。 学んだ保育技術を明確にする。 ピアノの練習をする。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習園の評価（50%）、実習日誌評価（50%）				
教科書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）				
参考文献	幼稚園教育要領（文部科学省）				
注意事項					

科目名	幼児教育実習研究		単位数	1	担当教員	こんじきはるこ ながい 近喰晴子・永井めぐみ
		授業形態	実習			
授業の内容	この授業は、教育実習が不安なく効果的に行われるよう、実習に向けて事前に準備をするための教科である。実習に必要な書類を整えることから指導案の作成、自己課題の発見と学ぶ範囲も非常に広い。また、実習園からの情報も、基本的には授業内で伝える。映像教材を使用し、幼稚園や保育者、子どもの実態を具体的に理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園に関する基本的な事を理解している。 2. 子どもの発達の様子や遊びの実態を理解している。 3. 保育活動、保育内容を理解している。 4. 教材研究、指導案を作成できる。 					
授業計画	第1回	実習申し込み書、実習配当表を記入する			第16回	実習報告グループ、全体一
	第2回	幼稚園の一日の様子を映像から通し学ぶ			第17回	実習自己評価と自己課題
	第3回	幼稚園教育要領解説			第18回	自己課題の取り組み方法
	第4回	提出書類の作成①—学生調査書下書き—			第19回	園評価と個別面談
	第5回	提出書類の作成②—学生調査書清書—			第20回	後期実習に向けて
	第6回	実習内容—環境整備、子どもの遊びなど—			第21回	実習時期と教材研究
	第7回	自己紹介の方法と紹介グッズの作成			第22回	部分実習指導案の作成
	第8回	実習時期の保育や子どもの様子			第23回	主活動の指導案作成
	第9回	実習課題を考える			第24回	一日保育実習指導案の作成
	第10回	オリエンテーションの受け方			第25回	オリエンテーション報告書と実習巡回教員への挨拶
	第11回	実習日誌の書き方①—保育の記録—			第26回	後期実習の心得
	第12回	実習日誌の書き方②—一日の振り返りと自己評価—			第27回	実習反省会
	第13回	記録文としての表現方法			第28回	実習報告会準備
	第14回	実習中の諸注意			第29回	実習報告会資料作成
	第15回	オリエンテーション報告、実習報告書			第30回	実習報告会
授業に対する予習・復習	予習： 絵本や手遊びなどを準備する。 実習資料を収集する。			復習： 授業時に出したレポートをまとめる。 授業中に完成できなかった課題をまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（20%）、課題（40%）、発表（20%）、実技（20%）					
教科書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）					
参考文献	『幼稚園教育要領』 保育雑誌など					
注意事項						

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		単位数	2	担当教員	つちや いたう こしかわ たかはら 土屋・伊藤・越川・高原
		授業形態	演習			
授業の内容	将来の教員像を描けるように、教職の意義を実践的な演習体験を通して学び直し、自己の課題を自覚し、教職生活が円滑にスタートできるようにする。主に使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、幼児理解や学級経営に関する事項、教科・保育内容に関する事項といった4つの具体的なテーマを中心に履修する。					
到達目標	1. 演習体験を通して、教職生活についての具体的なイメージができています。 2. 他の学生とのディスカッションなどの経験から、視野を広げて子どもとのかかわりを捉えることができる。 3. ポスター発表などを通じて、今日的課題を理解している。					
授業計画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	子ども一人ひとりに応じる保育とは① 子ども理解				
	第3回	子ども一人ひとりに応じる保育とは② 保護者に保育を伝える				
	第4回	保育者の視点で考える① 出来事を記述するということについて				
	第5回	保育者の視点で考える② 子どものトラブルに保育者はどう関わるか				
	第6回	今日的教育課題への理解を深める① 子どもの権利に関する条約				
	第7回	今日的教育課題への理解を深める② 事例作成				
	第8回	今日的教育課題への理解を深める③ ポスター発表に向けて製作				
	第9回	今日的教育課題への理解を深める④ ポスター発表				
	第10回	保護者同士の人間関係にアプローチする				
	第11回	保育者の悩みと対応について考える				
	第12回	現職幼稚園教諭による講話（クラス運営や職業生活の実際）				
	第13回	保育実践に向けて① 児童文化 素話とは				
	第14回	保育実践に向けて② 児童文化 素話に取り組む				
	第15回	授業全体のまとめと振り返り				
授業に対する予習・復習	予習： 次回の授業に関して、課題が示された場合にしっかりと取り組むこと。			復習： 配布資料を読み直し、ディスカッション等で話し合った内容をノートに整理する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（40%）、発表（60%）					
教科書	なし					
参考文献	授業において紹介					
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。					

科目名	保育相談支援		単位数	1	担当教員	かがや たかふみ 加賀谷 崇文
		授業形態	演習			
授業の内容	<p>保育現場において、保護者や子ども達の相談を受けることは現代の保育者にとって必須となる。従って、保育者を志す者は相談をどのように受ければよいのかを知っておく必要がある。</p> <p>この授業では、これまで学んできた心理カウンセリングの知識などを確認するとともに、実際の保育相談支援の現場を知ることで、実践的な保育相談を学んでいく。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者対応の実態を把握している。 2. 保護者の悩みについて理解している。 3. 就職してすぐに行う保護者支援についての具体的イメージを持っている。 					
授業計画	第1回	保育相談支援の意義				
	第2回	保育相談支援の原則				
	第3回	ケースワークの原則とカウンセリング				
	第4回	保護者の支援				
	第5回	保育相談の基本的な方法				
	第6回	保育相談で扱われる事例① 教科書の事例を学ぶ				
	第7回	保育相談で扱われる事例② 心理的問題				
	第8回	保育相談で扱われる事例③ 発達の問題				
	第9回	保育相談で扱われる事例④ 保護者の問題				
	第10回	保育所以外の場所での保育相談				
	第11回	他機関との連携				
	第12回	保育者の専門性と保育所の特性を考える				
	第13回	実際の事例を検討する① 学生発表				
	第14回	実際の事例を検討する② 学生発表				
	第15回	まとめ				
授業に対する予習・復習	予習： 保育所保育指針を読んでおく。			復習： 授業内容の振り返り。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（90%）、授業態度（10%）</p>					
教科書	『事例で学ぶ保育のための相談援助・支援 その方法と実際』（須永進編著、同文書院）					
参考文献	なし					
注意事項	保育相談では、悩んでいる人の発言に耳を傾けその心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。その姿勢を身につけるためにも授業をしっかりと聴き取るという構えを求める。					

科目名	地域子育て支援論		単位数	2	担当教員	つちやゆう こしかわようこ 土屋由・越川葉子
		授業形態	講義			
授業の内容	現代社会において、子育て支援は重要な課題となっている。一方で、これらの取り組みが始まってからある程度の時間がたち、より地域に根差した新たな支援も考慮しなければならない。本講義では、学生が主体となって実際の支援活動（後期に5回連続で実施）を企画・運営することで「地域子育て支援」のあり方について学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の具体的方法について理解している。 2. 二歳・三歳児と保護者への関わり方を習得している。 3. 子育て支援の効果を理解している。 					
授業計画	第1回	オリエンテーション			第16回	チラシの配布
	第2回	支援活動内容についての説明			第17回	親子活動準備③—教材準備—
	第3回	親子活動内容についての検討①—過去の活動内容—			第18回	活動役割分担
	第4回	親子活動内容についての検討②—活動のねらい—			第19回	直前準備
	第5回	親子活動内容についての検討③—主活動案の検討—			第20回	親子活動①—自己紹介、室内遊び—
	第6回	親子活動内容についての検討④—主活動案の決定—			第21回	親子活動②—制作活動—
	第7回	親子活動内容についての検討⑤—活動担当決め—			第22回	親子活動③—運動遊び—
	第8回	親子活動内容についての検討⑥—各回の検討—			第23回	親子活動④—絵の具遊び—
	第9回	親子活動内容についての検討⑦—各回の決定—			第24回	親子活動⑤—制作活動、振り返り—
	第10回	親子活動の広報に関する検討			第25回	活動振り返り①（1回につき4・5名ずつ）
	第11回	ポスターの製作			第26回	活動振り返り②（1回につき4・5名ずつ）
	第12回	チラシの製作			第27回	活動振り返り③（1回につき4・5名ずつ）
	第13回	HPの製作			第28回	活動振り返り④（1回につき4・5名ずつ）
	第14回	親子活動準備①—模擬制作—			第29回	次年度に向けた意見交換
	第15回	親子活動準備②—模擬活動—			第30回	まとめ
授業に対する予習・復習	予習： 活動に関して各自で準備すること。			復習： 活動内容を振り返ること（レポート）。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 授業態度（100%）					
教科書	なし					
参考文献	なし					
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 20名までの受講とする。 2. 第3回～9回については、学生が主体となって活動の内容を決定する。 					

科目名	カウンセリング論	単位数	2	担当教員	かがや たかふみ 加賀谷 崇文
		授業形態	講義		
授業の内容	<p>心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライアントの話しを如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライアントの悩みの聞き方を考えていく。 <u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u></p>				
到達目標	<p>1. カウンセリングの方法を理解している。 2. ピアヘルピングについて理解している。 3. カウンセリング的援助を実践できる。</p>				
授業計画	第1回	カウンセリングの定義			
	第2回	カウンセリングの初期の流れ			
	第3回	実際のカウンセリング			
	第4回	構成的グループ・エンカウンター			
	第5回	ピアヘルピングの方法① 信頼関係の構築			
	第6回	ピアヘルピングの方法② 問題の把握			
	第7回	ピアヘルピングの方法③ 援助法の選択			
	第8回	ピアヘルピングの方法④ 青年期の問題			
	第9回	ピアヘルピングの方法⑤ 応用編			
	第10回	ピアヘルピングの方法⑥ ロールプレイ			
	第11回	カウンセリングで起こりやすい問題点			
	第12回	様々な症例に対するカウンセリング			
	第13回	カウンセリングと保育			
	第14回	カウンセリングと子育て支援			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 教科書を熟読する。			復習： 教科書を読み直す。	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（100%）</p>				
教科書	<p>『ピアヘルパー・ハンドブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社） 『ピアヘルパー・ワークブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社）</p>				
参考文献	なし				
注意事項	カウンセリングの理論の中から、人の悩みや話の聴き方を学んでいく。				

科目名	福祉施設の現状		単位数	2	担当教員	こむろ たいじ 小室 泰治
		授業形態	講義			
授業の内容	福祉施設の利用者は、社会的養護を必要とする子どもたちや障害を持った子どもたち（成人施設を含む）である。その利用者は施設でどのような生活をし、将来自立した生活を行うために保育士や職員はどのような支援を行っているのか、保育士の役割など事例を通して自立支援のあり方を理解し、実践の場で活用できるようにする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 福祉施設の入退所に係る児童相談所や福祉事務所などの措置、支援について説明ができる。 各福祉施設の支援内容について説明ができる。 福祉施設職員として支援のあり方について説明ができる。 					
授業計画	第1回	社会的養護の必要な子どもの現状 福祉施設は各種ある。それぞれの施設はどのような役割を担っているかを学ぶ				
	第2回	福祉施設の入所から退所までの手続き 措置機関としての児童相談所、福祉事務所の役割について理解する				
	第3回	乳児院の現状と課題 乳児院の子どもたちの生活の現状と保育士の役割、愛着関係の形成について理解する				
	第4回	児童養護施設の現状と課題 児童養護施設での保育士の役割や被虐待児への支援、自立に向けた支援のあり方について考える				
	第5回	情緒障害児施設の現状と課題 情緒障害児施設での保育士の役割や家族支援のあり方について考える				
	第6回	児童自立支援施設の現状と課題 児童自立支援施設に入所する児童の事例から、非行と虐待の関係について検証する				
	第7回	母子生活支援施設の現状と課題 母子への支援はどのように行われるか、事例を通して保育士の役割を考える				
	第8回	障害者生活支援施設の現状と課題① 障害者総合福祉法及び障害者の自立と社会参加のついてどのような支援が行われているかを理解する				
	第9回	障害者生活支援施設の現状と課題② 自立に向けた福祉的就労と地域社会の資源の活用方法について考える				
	第10回	重症心身障害児施設の現状と課題 施設内での医療ケアや保育士の役割を理解する				
	第11回	里親制度の現状と課題 被虐待児の増加と里親養育の意義について事例を通して考える				
	第12回	福祉施設の新しい動き 施設生活から地域生活重視へ グループホームやファミリーホームなど				
	第13回	福祉施設の倫理 児童養護施設や障害児施設での体罰事例を通して職員の倫理を考える				
	第14回	認可外保育施設の現状と課題 民間事業者参入に伴う認可外保育施設の増加と課題について考える				
	第15回	福祉施設のリスクマネジメント まとめ				
授業に対する予習・復習	予習： 施設の種別ごとにグループでレポートしてもらい、日ごろからニュースや新聞報道に目を通して関心を持つこと。			復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（60%）、レポート（20%）、課題（20%）					
教科書	なし (適宜プリントを配布)					
参考文献	『子どもたちの生活を支える社会的養護内容』（小野澤昇・田中利則・大塚良一 編著）					
注意事項						

科目名	地域福祉		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
		授業形態	講義			
授業の内容	本講義では地域福祉の発展過程を踏まえながら、将来の展望を示し、社会福祉に必要な知識を学ぶことを目的としている。					
到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方とシステムを理解している。 2. 行政組織と民間組織の役割を理解している。 3. 現代における地域福祉の課題を理解している。					
授業計画	第1回	新しい社会福祉システム				
	第2回	地域福祉の基本的な考え方				
	第3回	地域福祉の主体と福祉教育				
	第4回	行政組織と民間組織の役割と実際				
	第5回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割				
	第6回	住民の参加と方法				
	第7回	ソーシャルサポートネットワーク				
	第8回	地域における社会資源活用・調整・開発				
	第9回	地域における福祉ニーズの把握方法				
	第10回	地域トータルケアシステムの構築と実際				
	第11回	民生委員とは				
	第12回	地域における福祉サービスの実際				
	第13回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方				
	第14回	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション				
	第15回	これまでのまとめ				
授業に対する予習・復習	予習：			復習： 配布した資料を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（60%）、課題（10%）、授業態度（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。					
教科書	なし (授業でプリント配布)					
参考文献	なし					
注意事項	提出物の期限は厳守すること。					

科目名	保育施設経営論		単位数	2	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
		授業形態	講義			
授業の内容	<p>保育所を経営するという事は、保育実践による“価値”を生み出し続けることである。そのためには、経営の条件を知り、「何のために」「何を大事にして」「どうあるべきか」を考え尽くすことが経営者の義務であり、なすべきことである。本講義において、この経営の本質を「経営品質」の視点から考察し、現場において活用できるように細分化する。また、保育所施設経営の重要性に対する実感を本講義のねらいとしたい。</p>					
到達目標	<p>1. 経営者として立つ倫理観を習得している。 2. 保育所施設経営の観点から、実践を磨いていく具体的な方法を習得している。</p>					
授業計画	第1回	保育所経営の条件				
	第2回	価値を生み出す保育所経営活動				
	第3回	保育所におけるリーダーシップ				
	第4回	保育所における社会的責任				
	第5回	保育業界市場の理解と対応				
	第6回	保育所戦略の策定と展開				
	第7回	保育士の能力向上				
	第8回	保育所の能力向上				
	第9回	保育現場という職場環境				
	第10回	保育価値創造のプロセス				
	第11回	情報マネジメント				
	第12回	保育所経営活動結果分析				
	第13回	人事・労務管理				
	第14回	施設・整備管理				
	第15回	まとめ				
授業に対する予習・復習	予習： 毎回の授業時に、講義内容を踏まえた予習課題を明示する。			復習： 毎回の授業後に、講義内容の理解を図るための復習課題をおこなう。 (添削指導を行い必ず理解につなげ発展できるよう指導する。)		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（50%）</p>					
教科書	なし					
参考文献	<p>『社会福祉施設・事業者の為の経営ハンドブック』（東京都社会福祉協議会） 『日本経営品質賞アセスメント基準書』（日本経営品質委員会）、日本経営品質学会機関誌</p>					
注意事項						

科目名	インターンシップⅡ	単位数	2	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
		授業形態	実習		
授業の内容	インターンシップ（就業体験）は学外実習のひとつであり、様々な分野の企業等の就業体験を通して職業理解を深め、広い視野をもつことができる。この授業は長期休業期間等を利用して実施されるインターンシップ実習、および事前事後指導からなる。実務体験を通して、自身の職業適性、社会人に求められる基礎学力、キャリア形成を考える絶好の機会である。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を通して社会人として必要なビジネスマナーを習得している。 2. 就業体験を通して仕事への責任感を持つことができる。 3. 就業体験を通して自己の課題に気づき自主的に行動することができる。 				
授業計画	第1回	ガイダンス① 地域保育学科におけるインターンシップ実習の意義、概要、今後のスケジュール			
	第2回	ガイダンス② インターンシップ実習報告会（前回実習参加者による体験発表）			
	第3回	インターンシップへの心構え、受入事業体の職種および業務内容の理解			
	第4回	実習申込み手続き			
	第5回	学内選考（書類・面談）			
	第6回	実習先事業体の決定			
	第7回	事前指導① インターンシップ参加目的と目標設定、必要な手続き等の説明			
	第8回	事前指導② 学外向け書類の作成および提出			
	第9回	事前指導③ 社会人としての基本マナー等			
	第10回				
	第11回	就業体験（現場での実務体験）事業体によって実習時期、期間が異なる			
	第12回				
	第13回	事後指導① 記録の提出、報告書の作成			
	第14回	事後指導② 面談、実習報告会の準備			
	第15回	事後指導③ インターンシップ実習報告会			
授業に対する予習・復習	予習および復習：予習（事前準備）および復習が必要な場合は担当教員が指示する。				
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習（60%）、課題（20%）、授業態度（20%）				
教科書	必要に応じて随時指定				
参考文献	必要に応じて随意紹介				
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に必要な手続きおよび書類作成は授業内で行うため必ず出席すること。 2. 事前事後指導の無断欠席は派遣を中止する場合もある。 				